

# 総合臨床実習評価表 (Ⅰ期・Ⅱ期)

学籍番号 \_\_\_\_\_

学生氏名 \_\_\_\_\_

実習施設名 \_\_\_\_\_

実習指導者名 \_\_\_\_\_

国際医療福祉専門学校七尾校  
作業療法学科

## 成績評価基準

I. 評価項目は6分野からなり、各分野の項目数は下表の通りである。

分 野	項目数	配 分
I. 評 価	4	68%
II. 治療計画	5	
III. 治療実施	5	
IV. 記録報告	3	
V. 職業人としての適性	6	32%
VI. 管理運営	2	

II. 各項目は4点満点とし、全体は100点満点となる。各項目の評定基準は以下の通りである。

4. 判断力・適応力もあり少しの助言で目標に到達できた。
3. 知識・技術はあるが、臨床に適応させるための助言・指導があれば目標を達成できた。
2. 知識が断片的で技術も未熟であるが、多くの助言・指導があれば目標を達成できた。
1. 多くの助言・指導を得ても、目標を達成するには不十分である。
0. 多くの助言・指導を得ても、目標を達成することができない。

III. 各項目の評点の合計点を下記の段階にあてはめて総合評価を行う。また、実施できなかった項目があった場合には、その項目を除いたものを100点満点に換算する。

合 計 点	段 階	合 否 判 定
100～80	優	合格
79～70	良	
69～60	可	
59～0	不可	不合格

## I 評価

評価項目	評価項目説明
1. 対象者の評価に必要な情報を適切に収集することができる。	OT治療の第一歩は対象者の全体像をとらえることから始まる。評価を実施する前に対象者に関する情報を集め、予備知識を評価へのより適確な助けとすることができる。情報の対象としては、各チーム・メンバーの専門分野からの収集である。(例えば、医師、看護師、CP、PT、SW等)
2. 適切な評価方法を選択することができる。	対象者のもつ症状、問題点にあわせて適切な評価方法を選択する。評価には観察、面接、テスト等がある。
3. 選択した評価法を適切な方法で実施することができる。	評価にあたって、対象者の状態や性格を考慮することができる。必要な材料、器具及び場所を確保している。対象者に評価の内容を充分説明することができる。
4. 評価結果から問題点を列挙できる。	評価結果をまとめ、今迄収集した情報をも含め、対象者にとっての問題点を整理する。その後、これらの問題の起こっている原因について検討することができる。

## II 治療計画

1. 対象者のリハビリテーション・ゴールを評価にそって設定できる。	対象者のリハビリテーション・ゴールは各部門から評価及び問題点が持ちよられ、チーム全体で討議され、最終的に対象者が到達できる目標が設定される。従って、ここで設定されたリハビリテーション・ゴールの内容をよく理解し、他人にも説明できる。
2. リハビリテーション・ゴールを達成するために、具体的なOT治療をたてることができる。	リハビリテーション・ゴールを達成するために、OTに託された範囲内での治療目的を適切に設定できる。
3. 治療順序 (Sequence) の選択を適切に行うことができる。	具体的にどのOT目標から治療を実施するのか、その順序を適切に設定できる。
4. 治療手段 (活動) の選択を適切に行うことができる	実際に行われる治療手段 (活動) が治療目的を達成させるために適切に選択できる。この時の選ばれた活動が対象者の問題点にそったものであり、かつ、OTの目的に関連づけられる。
5. 変化に応じて治療目標をたてる。	対象者の変化により、治療順序や治療内容を柔軟、かつ、機敏に適応させることができる。

コメント	評価
	4 3 2 1 0
	4 3 2 1 0
	4 3 2 1 0
	4 3 2 1 0
小 計	

	4 3 2 1 0
	4 3 2 1 0
	4 3 2 1 0
	4 3 2 1 0
	4 3 2 1 0
小 計	

### Ⅲ 治療実施

評価項目	評価項目説明
1. 治療の目的と手段を対象者に説明できる。	対象者に応じて治療の目的と手段を適切に説明し、対象者が治療に励み、協力する気持ちを作ることができる。
2. 対象者の家族等に対して治療上必要な説明や指導（オリエンテーション）を行うことができる。	対象者の家族等に対して治療に協力が得られるように治療上必要な説明及び、指導を適宜行うことができる。必要に応じて家族の治療参加のために、教育指導を行うことができる。
3. 治療手段を適切に実施できる。	具体的に選択された治療手段（活動）を目的に適合させて活用することができる。
4. 治療実施の際、安全性を考慮できる。	治療を実施する際、対象者のリスク管理・体調・作業療法中に予測される危険性を考慮し、それらの安全性を確認したうえで、作業療法を実施できる。
5. 対象者の変化に応じた治療を実施できる。	対象者の変化に応じて治療手段を随時変更させ得る判断力、及び、柔軟性が必要である。常に対象者の状態像に即した治療内容を行うことができる。

### Ⅳ 記録・報告

1. 治療上の記録、及び、報告内容を適切に選択することができる。	治療上での情報を必要に応じて、必要な場所から収集し、それを適確な判断のもとに取捨選択し、記録・報告が書ける。
2. 治療上の記録、及び報告は、専門用語を用いて簡潔にまとめることができる。	記録・報告の内容には、正確な専門用語を適切に使用し、かつ、その内容には客観的観察に基づいて表現することができる。表現に関しては、誰にでも読みやすく、簡潔で、主旨を正確に伝達することができる。
3. 治療上の報告を口頭で適切に行うことができる。	口頭での報告を主旨にそって必要部分を正確に相手に必要な時に伝達することができる。

コメント	評価
	4 3 2 1 0
	4 3 2 1 0
	4 3 2 1 0
	4 3 2 1 0
	4 3 2 1 0
小 計	

	4 3 2 1 0
	4 3 2 1 0
	4 3 2 1 0
小 計	

## V 職業人としての適性

評価項目	評価項目説明
1. 規則や心得を守ることができる。	きめられた規則や心得やその施設で設けられている学生のための任務，本分を守ることができる。組織の中で働く際の基本的なこれらの点を受け入れることや任務を理解し，行動に表すことができる。
2. 与えられた課題を責任を持って遂行することができる。	実習期間中の責任，又は業務，課題を計画的に組織的に実行に移すことができる。とりわけ，課題を適切な時間内に処理することができる。
3. OT職員や他の職員、及び家族に適切に対処することができる。	自分達の部門内ばかりでなく，他部門の職員，又は患者の家族等との信頼，交流を保つことができる。
4. 対象者と望ましい人間関係を保つことができる。	
5. 実習学生として必要な基礎知識を有している。	学校で習得した知識をきちんと整理し，有効に活用することができる。
6. OTに対する探求心，意欲，及び，創造性がみられる。	

## VI 管理運営

1. 部門内の業務内容を理解し行動に移すことができる。	この評価項目の内容は非常に広く，患者の治療，部門の事務処理，部門人材の教育と大別することができる。ここでは，特に部門の事務処理を対象としている。管理運営，及びそれに伴う事務記録，報告を必要に応じて適切に一人で書きあげることができる。
2. 作業療法について適切な紹介と説明をすることができる。	見学者，他部門の職員，家族等に折ある毎に作業療法の紹介と説明をすることができる。その度毎に，自らのOTの考え方と説明も要を得てまとめより適切な紹介を他に与えることができる。

コメント	評価
	4 3 2 1 0
	4 3 2 1 0
	4 3 2 1 0
	4 3 2 1 0
	4 3 2 1 0
	4 3 2 1 0
小 計	

	4 3 2 1 0
	4 3 2 1 0
小 計	

合 計

--

VII 本学生の実習中の印象を要約して下さい。又、その他お気づきのことがありましたら、ご意見をお書き下さい。

日付 平成 年 月 日

実習指導者署名 \_\_\_\_\_ 印

◎ 学生の反省と感想

日付 平成 年 月 日

学生署名